

斐川の戦争遺跡や学童疎開から学んだこと

「お父さん、お母さん、帰りたいよー」。「おなかいっぱいご飯が食べたいよー」。戦争中に大阪から斐川の地に学童疎開をしていた子どもたちは、心の中できつとこんなふうにさげんでいたと思います。

私が、平和学習を通して一番印象に残ったことは学童疎開です。戦争中に、大阪から私たちのような小学生が、親元を離れ、来たこともない斐川の地で学童疎開をしていたと聞き、本当に驚きました。食べる物も十分ではなく、長期間にわたる親元を離れての寂しい生活。もし私だったら、きつとたえられなかったと思います。今、私は、家族と日々平和に楽しく暮らしています。当たり前かもしれませんが、今の生活に心から感謝し、自分がやるべき事をしっかりやろうと思いました。

私のひいおばあさんは九十五歳で、戦争を体験しています。話を聞くと、人生で一番楽しい二十歳ごろに戦争が起き、辛い生活が続いたそうです。私は、戦争を体験した人が身近にいたことに驚きましたが、ひいおばあさんの話からも二度と戦争をしてはいけないと強く思いました。

私が、平和学習を通して学んだことは「平和の大切さ」や「命の尊さ」です。

「戦争中、この斐川の地は安全な場所だったのだろうか？」平和学習で、須田先生が私たちにこう投げかけられました。私は、質問されてもすぐに答えられませんでした。しかし、大社基地・段原鉄橋などの戦争遺跡の見学を通して、その答えが分かりました。戦争中、斐川の地は決して安全な場所ではなく、とても危険な場所だったのです。

私達西野小学校の校区には、「大社基地」と呼ばれる海軍航空基地の跡があります。実際に大社基地に立ってみると、爆撃機「銀河」や人間爆弾「桜花」のことが頭に浮かびました。戦争で大事な命を犠牲にされた方は一体どんな思いだったのでしょうか。私には簡単に想像することはできませんが、とても残念な思いやくやしい思いをされたことはまちがいないと

思います。

また、段原鉄橋見学では、実際に、アメリカ海軍戦闘爆撃機の銃弾の跡を見ました。銃弾がとても分厚い鉄の壁二枚もぶち抜いていることが分かり、本当にこわくなりました。

ぼくたちは、戦争遺跡の見学や社会科の学習で日本国憲法について学び、平和主義の大切さを痛感しました。そして、ぼくたちにできることはなにかと考えてみました。すごく大きなことはできないかもしれませんが、まずは、友達と仲よくし、いじめのない学校を作ることだと思います。また、戦争について学んだ事をいろいろな人に語っていくこともできると思います。大社基地という全国でも珍しい戦争遺跡を後世に残してもらい、戦争中にこの斐川の地で起こったことをいつも心に留め、そしていつまでも忘れず、二度と戦争のない世の中を作っていきたいと思います。

確かに、戦争中、この斐川の地は安全な場所ではなかったけれど、ぼくたちの力でこれから先も斐川の地を、そして、世界をずっと安全な場所にしていきたいと思います。

令和3年8月11日

出雲市立西野小学校6年

新田 泰知 永瀬 陽依 中島 咲音